

授業改善等に関する報告書（2023 年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2023（前期）美学美術史学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
グローバル・アートスタディズ f	串田 紀代美	<p>前期の授業、おつかれさまでした。本授業は、通常の文章技術の指導に加え、みなさんが近い将来必要となる就活のための「ビジネス日本語」を取り入れて、就活のハードルを低くするという目標のもと、運営してきました。毎回の課題は大変だったと思いますが、ほとんどの方がドロップアウトすることなく、最後まで学びを継続してくださいました。</p> <p>残念ながら、今年度でこの授業は終了するそうです。最後の授業で、履修者のみなさんが真摯に取り組んでくださり、少しでもこの授業が役に立ったという声を聞き、大変嬉しく、そして安堵しています。</p> <p>社会人になっても、みなさんの日本語力はどんどん伸びていきます。文章力は一度身につければ、みなさんの一生ものの「財産」になります。またある時は、相手を説得して見方を得たり、奨学金や助成金などを得たりするための「武器」にもなります。みなさんの人生の「守り刀」として、将来みなさんが正しく美しい日本語の使い手になってくださることを信じています。半年間、ありがとうございました。</p>
デザイン実習 a	下山 肇	<p>履修者たちは繰り返しの思考プロセスを通じて、質の高い作品や表現を生み出す技術を獲得したと感じていることが明らかである。テーマに関する実際の取材を通じて、多くの学びや新しい発見が得られたとの声が多数挙げられた。特に、物の魅せ方やデザインの工夫に関する理論や実際の手法に目を開かれたとの感想が強く伝わる。</p> <p>また、デザインを効果的に作成する方法や、異なる要素を組み合わせる方法など、具体的な技術や知識の習得についての意見も見受けられる。デザインの知識を超えて、効率的な課題の進め方や実践的な取り組み方法も学んだという意見もあった。この授業を通じて、テーマに関する多角的な視点が身についたとの意見が多く、今後の学びや実生活においてもこれらの経験や知識が大いに役立つことが期待される。</p>
デザイン実習 d	下山 肇	<p>レポートの内容から、多くの学生が実際の企画を開発・実践する経験を通じて、未知の事柄への対応力やコミュニケーション能力の向上を実感していることがわかった。特に「実際に行ってみないとわからないことが多く、子供たちの想像力や新しい発想に驚く場面も多かった」との声は、実際の現場での体験が非常に貴重であることを示している。また、「グループ活動の楽しさと難しさを体感し、協力し合いながら試行錯誤できた」という意見も、チームでの協力の重要性を感じる学生が多いことを示している。</p> <p>今後の授業の展望としては、このような現場での体験をさらに増やし、学生たちが実際の状況での対応力やコミュニケーション能力を更に向上させる機会を提供していくことが考えられる。また、「ワークショップの過程で「一緒にやる」心掛けが重要であることを理解し、それが良い反応を生むことを経験した」という意見を受け、実際の企画を開発・実践を行う際の心掛けや姿勢についても、学生たちの探求心を刺激し、学びの深化を図っていく。</p>
デザイン入門 a	下山 肇	<p>教職課程として基本的に習得すべき内容や、特にデザインということに関して、概ね理解が得られた。</p> <p>また今年は「普段見る色にも興味を持てた。」や、「日常に溢れる様々なデザイン（ポスターや看板など）に目を向けて、考える力が身についた。」 「日々の生活でもこれは補色だ！」など知識が生かされていました。」などの意見が目立ち、授業外での日常生活でも本授業での学びが生かされていることは意義深い。</p> <p>毎回のことであるが、制作系の授業ではどうしても制作時間が短く感じられてしまうため、今後もバランスを取るよう調整していく。</p>
絵画実習 a	織田 涼子	<p>授業進行や配布資料は特に問題なく、工夫して制作できたようで安心しました。さまざまな表現技法の良さを理解することができたという意見があり、大変嬉しく思います。これからも、さまざまな表現に挑戦されることを期待いたします。</p>
絵画入門 a	織田 涼子	<p>デッサン及び着色の道具や技法について理解し、各自が成長を実感できたようで大変嬉しく思います。板書や配布資料は概ね良い評価でしたが、授業の進むスピードや声の聞き取りやすさは低評価でした。教職関連の実技科目に必要な全体説明に加えて、個別説明の時間帯を工夫し、適切な実習方法を検討したいと思います。</p>
実践プロジェクト b	下山 肇	<p>「プレゼンだけでなく、物事の捉え方やアイデアの出し方を考える力が身についた」という意見は、本授業の目的とも符合しており、非常に嬉しく感じている。また、「AIを使うことで自分の意見が深まることを学んだ」という意見や、「テーマについて自分で案を考えていくうちに理解を深めることができた」という意見からは、具体的なテーマやツールを通じての学びの深まりを感じることができた。</p> <p>今後の授業展望として、企業とのコミュニケーションの機会をさらに増やし、現場の声を直接学べる環境を整えることを考えている。その中で、新たな提案やアイデアの出し方、そしてそれをどのようにプレゼンするかという論理的なスキルの向上にも注力していく。「もう一回受けたい」という声を励みに、より実践的で有意義な授業を提供できるよう努力していく。</p>
実践入門セミナー	齋藤 達也	<p>意見をいただきありがとうございました。 授業をさらに改善していきます。</p>

【2023（前期）美学美術史学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
実践入門セミナー	織田 涼子	授業に意欲的に取り組み、成長を実感できたという意見が多く、安心しました。大学での学びを理解し、美術館・博物館見学を通して作品を鑑賞する力が身に付き、文章力を鍛えることに繋がりが、嬉しく思います。
実践入門セミナー	駒田 亜紀子	入門セミナーは、特定の分野の知識を蓄えるというよりは、高校とは異なる、大学での学びのために必要なノウハウを学ぶ授業です。美術館の見学や図書館の利用など、今後の卒業までの本学科での学びに必ず生かすことのできる内容です。これからの学びに繋げていってください。
実践入門セミナー	馬淵 美帆	大学での初めての授業で、すぐにはわかりにくい点などもあったと思いますが、どの回の授業にも、大学生活や学科での学びにとって重要な内容が含まれています。今後必要に応じて、資料等を見直していただければと思います。皆さんからいただいた回答を元に、担当で内容を再検討して、今後よりよい授業にしていきます。
西洋近代美術史演習 a	齋藤 達也	意見をいただきありがとうございます。授業をさらに改善していきます。
西洋近代美術史特講 c	齋藤 達也	意見をいただきありがとうございます。授業をさらに改善していきます。
西洋近代美術史入門 a	齋藤 達也	意見をいただきありがとうございます。授業をさらに改善していきます。
西洋美術史演習 a	駒田 亜紀子	回答してくださった皆さんは、時間をかけて授業の準備や課題にとりくみ、成果を上げつつあることがわかります。授業時点では十分に消化しきれていないと思われた内容も、次のステップの理解の基盤となって積み上げられてゆきます。ご自身の成長に自信をもって頑張ってください。
西洋美術史特講 c	駒田 亜紀子	ステンドグラスとタピスリーは、いずれも、建築に付随する大きなサイズの作品であり、日本ではなかなか実物を見る機会の無い作品であるという意味で、難しかったかもしれません。今後、実際にどこかで作品を実見する機会のあるときに、授業の内容を思い出しつつ、作品の固有の鑑賞方法をぜひ自分でためてみてください。
西洋美術史入門 a	駒田 亜紀子	入門aの授業内容は、これまで見たことも聞いたこともない作品が多く、戸惑われたことと思います。実際に見る機会の少ない作品が多かったのですが、こうした作品が、入門bで扱う後の時代の美術の展開へとつながります。楽しみにしてください。
卒論ゼミ a	椎原 伸博	アンケート提出がありませんでした。後期はしっかりアンケート提出をお願いします。
卒論ゼミ a	齋藤 達也	意見をいただきありがとうございます。授業をさらに改善していきます。
卒論ゼミ a	児島 薫	例年のことですが、前期の間は就職活動や教育実習などで落ち着かないことが多いと思います。夏休みにしっかり挽回し、秋になってあわてないようにしましょう。
卒論ゼミ a	武笠 朗	授業は対面実施。5限目という時間帯ながら、学生はしっかり出席してくれた。アンケートは5名中2名の回答があった。少なくても結果にコメントしづらいが、少人数であればこそ、さらに双方向性を高めなければならぬだろう。個人指導の時間をもっと増やし、学生個々の課題に対応、即応していくべきと考える。後期指導の課題である。
卒論ゼミ a	串田 紀代美	前期の授業、お疲れさまでした。「好きなこと」を追求するという課題は、想像以上に難しいことを実感した方が多かったと思います。一方で、3年次の演習のときから卒論のテーマを絞っていき、飛躍的な伸びを見せた方も少なくはありません。卒業論文は、執筆後に俯瞰的に全体を見渡すことができます。まだ執筆途中にあるみなさんは、全体像が見えにくいかもかもしれませんが、とにかく頭の中にあることを一度見えるようにすることが第一段階です。その時、はじめて自分の考えや、目指しているゴールを客観的にみることができます。そのため、草稿を早くから書き始める、ということを目指しています。 「民俗芸能卒論ゼミ」は22人と履修者が多く、一人一人にける指導時間が物理的に少ないので、みなさんはずっと我慢を強いられていることをよく認識しています。学科内でのコンセンサスがうまく取れていないようで、みなさんには大変ご不自由を強いっておりますが、リクエストがあれば遠慮なく仰ってください。12月の完成めざして、後期も一緒にがんばりましょう。
卒論ゼミ a	駒田 亜紀子	回答をありがとうございます。一人分の回答しかありませんので、コメントが難しいですが、卒論ゼミは、約10か月をかけて、これまで書いたことのない卒論を少しずつ構築してゆくプロセスです。そのプロセスそのものが今後の成長と大きな自信につながります。頑張ってください。
卒論ゼミ a	馬淵 美帆	就活などで忙しい中だったと思いますが、受講者の皆さんは意欲的に取り組んでくれたと感じています。後期はよいよ卒論執筆を進めていただくので、より個別的な指導をしていく予定です。

【2023（前期）美学美術史学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
日本近代美術史演習 a	児島 薫	アンケートの呼びかけを忘れてしまいましたら、回答者が少なくなっていました。もう少し回答していただきかったです。また後期の授業での、みなさんの活発な参加を期待しています。
日本近代美術史入門 a	児島 薫	ほとんどが初めて見る作品で、作家の名前も聞いたことがなかったということが多かったと思います。それだけに、成長を実感できたと思います。夏休みのあいだにキャンパスメンバーズを利用して東京国立近代美術館の所蔵品展示や東京国立博物館の常設展、地元の美術館などをのぞいてください。実物を見ておくと、一層興味を持てると思います。
日本美術史演習 a	馬淵 美帆	昨年度より人数が多く、授業内で発表準備にあてる時間がやや少なくなったのですが、受講者の方におおむね満足していただけたようでよかったです。皆さんからいただいた回答を元に、次年度の授業方法を工夫していきます。自分で発表を組み立てて行うことや、他の人の発表にコメントすることは社会に出てからも役立つ重要なスキルですので、今後も意識的に取り組んでいって下さい。
日本美術史特講 c	馬淵 美帆	オンデマンドの授業で受講しにくい点もあったかと思いますが、毎回の課題など、受講者の皆さんはとてもよく書いて下さっていたと感じます。受講上の希望や質問をすぐに受けにくく、不満を感じた方もおられたことと思いますが、皆さんからいただいた回答を元に、後期の特講dの方法を工夫していきます。
日本美術史入門 a	馬淵 美帆	大学での初めての授業で、情報量も多く、大変に感じた方もいたことと思います。入門aの内容は、今後美術史を学ぶ上での基礎となるので、資料を見返したり図書館の本で復習するなどを積極的に行っていただきたいと思えます。授業中は、自主的にメモを取ることを心掛けて下さい。皆さんからいただいた回答を元に、次年度の授業方法を工夫していきます。
美学演習 a	椎原 伸博	回答率が低かったのですが、皆さんの予習時間や理解度は平均より高く、総合的な満足度が高かったです。この授業は、グループ発表と個人発表を行い、グループ内での調整が難しい時もあったと思います。しかし、皆さん協力して協働力を高めていったように思います。後期は、卒業論文に直結しますので、気を引き締めて授業に臨んでください。
美学特講 c	椎原 伸博	23年度前期の美学特講cは、モダンアートの歴史を中心とする授業でした。アンケートの回答率が低かったのですが、授業全体の理解度が低めだったのは残念でした。授業の情報量が多く、それをまとめるのは大変だったと思いますが、皆さんの週あたりの学習時間も平均値より低めだったので、やはり予習復習が必要です。是非、データで配布した資料とレジュメをファイル化して、全体の授業の流れを見直してください。
美学入門 a	椎原 伸博	美学入門aは難解な授業だったと思います。例年、理解度は他の科目よりも低い傾向にあります。しかし、コメントを読むと、しっかり学習していると、考える力、哲学的な思考が身につく、美や芸術に対する興味が出てくる発言も多くありました。ギリシア悲劇やモリエールの戯曲の観賞を元にした、対面授業では皆さん熱心に議論していて、頼もしかったです。後期は、さらに難解になるかもしれませんが、予習復習をして美学の学問的世界に触れて下さい。
仏教美術史演習 a	武笠 朗	14名中2名の回答であった。アンケートへの回答を促さなかったことによる。反省。この授業を取らざるを得なかった学生もいるかと思うが、取った以上は、しっかり学んでもおもしろさを見つけてください。後半は研究発表をしてもらったが、プレゼンではない研究発表にまだ不慣れで、うまく行かなかった人もいたかと思うが、後期のbの授業でも発表があるので、前期の反省を生かして取り組んでもらいたい。少人数なので、もう少し双方向性を高め、学生指導に当たりたいと考える。個人指導の時間を増やしたい。
仏教美術史特講 c	武笠 朗	全回対面で実施した。アンケートの回答は8名で回答率約19%と低かったのは、回答を促すのを忘れたためで、深く反省している。受講者数が少ないので、なんとかおもしろい、聴いてもらえる授業を心がけたつもりだが、なかなか苦戦している。そもそも漢字が多く用語が難しい領域なので、そのあたりをほどよく解消しつつ、話にメリハリを付けていって、わかりやすいオチのある話に仕立てられるかがポイントで、引き続き後期dの授業の課題となろう。それからレポートの返しも早くやらなければならない。そのあたりを反省しつつ後期に向かいたい。引き続き、予習復習はまあよいから、授業に集中して聴いて欲しい。
仏教美術史入門 a	武笠 朗	今回のアンケートは52人の回答で、約40%の回答率にとどまったのは、回答を促すのを忘れたためで、大いに反省をしている。今回は全回対面で実施した。わかりやすい授業を心がけたつもりだが、理解されているところから思い込んでいることが多いので、授業中の用語などに解説を加えるなど工夫を凝らしてみたい。また授業の双方向性は依然として課題だが、小テストのコメントをなるべく間を置かずにするなど、一応心がけたつもりである。学生諸君は、わからないことがあったらmanaba等ですぐに伝えてください。解説したいと思えます。

【2023（前期）美学美術史学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
民俗芸能演習 a	串田 紀代美	<p>前期の授業、お疲れさまでした。昨年度の「民俗芸能演習a」に引き続き、今年度も非常に積極的な履修者のみなさんに助けられ、前期の授業を無事に終えることができました。前半のキーワードと合わせ、後半の個人研究発表も回を追うごとにプレゼンテーション能力を伸ばしていく皆さんを見て、大変頼もしく、また誇らしく思いました。「問い」「答え」「理由（論拠）」の文字が、毎回皆さんのパワーポイントに並ぶのを見て、口頭発表の構成を短時間で身につけることができた学生のみなさんの底力を感じました。一方で、「民俗芸能」という授業の枠組みの中で、自分自身が「好きなこと」を見つけるのは、なかなか難しいことが分かったと思います。前期は主体的に興味のあることを発見する、ということが本授業の目標でした。後期は、「民俗学」や「民俗芸能」という専門性の中で、みなさんが興味のあることを発見してみてください。思ったより難しかった、うまくいかなかったという方も、気にする必要はありません。「習うより慣れろ」をぜひ後期も実行し、与えられたテーマの中での課題発見力と口頭発表技術力を一緒に磨いていきましょう。</p>
民俗芸能特講 c	串田 紀代美	<p>前期の授業、お疲れさまでした。美学美術史学科の中心は「美術史」と「美学」であるため、本学科の学生のみなさんが「民俗芸能」にどれほど関心を持って主体的に学んでくれるのだろうと、毎年新年度は心配します。ところが今年度の履修者のみなさんは非常に熱心かつ積極的で、出席と課題提出にその学習態度が如実に現れていました。多くの方が3年次の「演習」を視野に入れて、学習してくださったのでしょうか。毎回の課題提出に加え、学期末の授業内のテストもかなり力を入れて準備なさった方が多く、平均点が非常に高かったのも今年度の特徴です。多くの学生のみなさんの積極的かつ真摯な学習態度に励まされ、前期の授業を終えることができました。後期も、ご自身の興味を探求し、日常生活の中で「民俗芸能」や「民俗学」に繋がることを発見する楽しみを見つけてください。</p>
民俗芸能入門a	串田 紀代美	<p>半年間、お疲れさまでした。新型コロナウイルスがある程度収束したにもかかわらず、本授業はオンデマンド型で行わなければならない、大変な思いをなさった方も多かったかと思えます。毎回の課題提出が憂鬱な方もいらっしやっただと思います。そのため、みなさんの日頃の努力を成績に少し反映しました。</p> <p>通常の授業参加や課題提出に加え、学期末の授業内テストも時間をかけて丁寧に準備してくださった方が多く、この点でも多くのみなさんにお礼を言いたいです。民俗学や民俗芸能は、わたしたちの日常生活のすぐ近くにあります。美術作品は、美術館博物館に行かなければ、なかなかアクセスできませんが、民俗学や民俗芸能のエッセンスは、皆さんの毎日の生活の中で発見することができます。そのような視点で、シラバスを組み立てています。後期も、みなさんが「これって、民俗学?」「これって、民俗芸能?」と思うものを、一緒に楽しく発見していきましょう。半年間、ありがとうございました。</p>